

寿岳 章子さん、ふたたび

元祖わきまえない女に今学ぶこと



シンポジスト (五十音順)

● 遠藤 織枝 (元文教大学教授)

● 久米 弘子 (京都弁護士会所属弁護士・
国際婦人年京都連絡会代表)

● 佐竹 久仁子 (姫路獨協大学非常勤講師)

● 田中 聡子 (朝日新聞記者)

寿岳章子さん(1924-2005)は一年配の方の中には、あのふくよかな笑顔と巧みな話術をご記憶の方も多いと思います—日本語研究者として多くの業績を残し、平和憲法を守り、あらゆる差別を許さない活動家として、女性を励まし勇気づけながら生涯を閉じました。今日本社会はコロナ禍で厳しい状況下にあります。特に女性にその困窮度が集中し悲惨な事例が増えています。この閉塞社会を、寿岳さんだったらどう切り抜けたのでしょうか。寿岳さんだったらどんなことばをかけて、人々を励ましたでしょうか。寿岳さんのあの前向きなエネルギーと底抜けの元気がほしい、もういちどあの活力をわけてもらいたい—
このシンポジウムの企画は、そういう思いから生まれました。

〔開催日時〕 2021年9月4日(土) 14:00~17:00

〔開催方法と参加費〕 Zoom開催、参加無料 〔申し込み方法〕 <https://forms.gle/TeGzqurYinLLXWPk6>

〔申し込み締め切り〕 8月30日(月) 〔実行委員会事務局連絡先〕 jimu.jugaku@gmail.com

〔主催〕 <寿岳章子さん、ふたたび—元祖わきまえない女に今学ぶこと—> シンポジウム実行委員会 / 現代日本語研究会



寿岳 章子さん、ふたたび

元祖わきまえない女に今学ぶこと

● 遠藤 織枝 (元文教大学教授)

寿岳さんは、女性のことば研究を中心に、生涯を通して精力的に活躍し、その話術の巧みさ、発想の斬新さ、牽引力の強さで人々を魅了した。今回、女子専門学校時代から西京大学(現・京都府立大学)の助教授時代までの日記が発見された。そこに記された、学問研究への情熱、家事を大事にする生活力、異性を思う複雑な心境、おしゃれへの追求など、青春真ただ中の寿岳さんを紹介する。

● 久米 弘子 (京都弁護士会所属弁護士・国際婦人年京都連絡会代表)

寿岳章子さんは、京都で「憲法を守る婦人の会」を立ち上げ、毎年、12月8日(日米開戦の日)と、8月15日(終戦の日)には元気一杯の楽しい女性の集会を主催された。また京都の民主府政・市政をとり戻すための活動もされてきた。まだ数少ない女性の大学教授だったが、今でいう「わきまえない物言う女性」の代表として活動され、広く愛された。ことばを人一倍大切にしながら、憲法と平和を守り、不平等と差別を許さない立場で、きちんとものを言ってこられた寿岳章子さん。地元京都からのご報告です。

● 佐竹 久仁子 (姫路獨協大学非常勤講師)

寿岳さんの『日本語と女』は今から40年以上も前に女らしさ(ジェンダー)とことばの関係に注目した研究である。それは当時の「女性語研究」にはない新しい視点を提示していて、現代のことばとジェンダー研究の先駆けといえる。寿岳さんの論じたことをもう一度あらためてふりかえり、その問題意識を共有したい。

● 田中 聡子 (朝日新聞記者)

新聞の読者からは、昔から「主人」という呼び方など、言葉に表れるジェンダー規範への違和感を指摘する声があった。その声は、いまもやむことはない。明るく、厳しく、社会に問題提起した寿岳さんの現代性を、読者の声や新聞記事から考える。

